

女性の活躍支援(テレワーク、女性公務員の活躍推進)

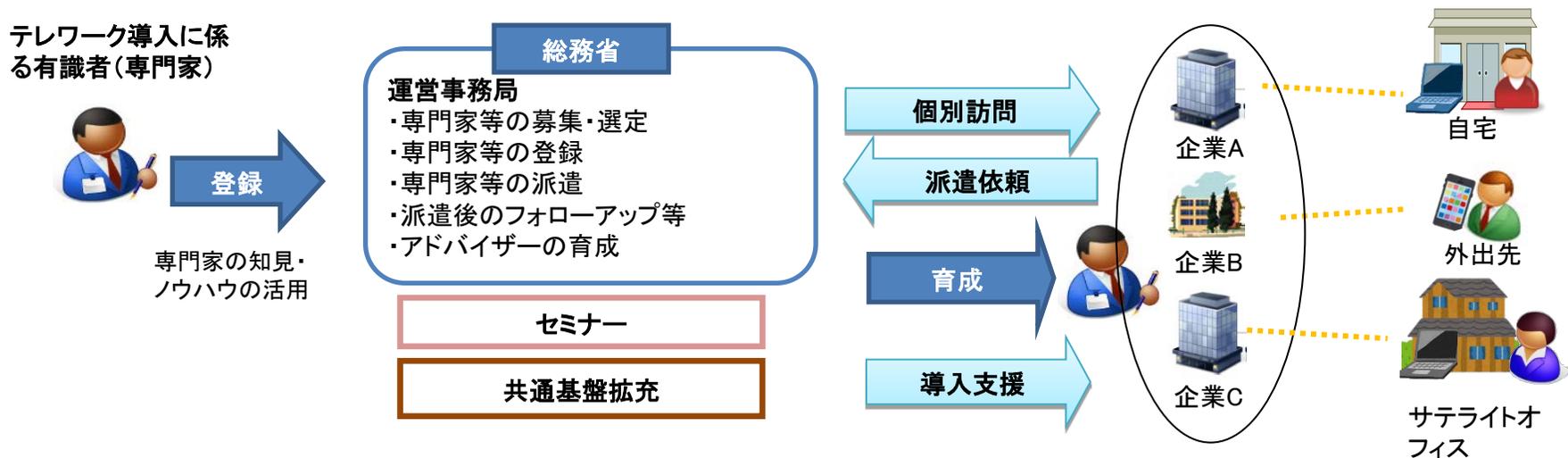
女性の活躍支援(テレワーク)

【主な経費(再掲)】 ふるさとテレワーク推進事業

9.0億円 (1.5億円<27当初(ICTを活用した新たなワークスタイルの実現)> 及び 10億円<26補正>)

- 女性の活躍推進に向けて、事業者・利用者の意識改革を促し、テレワーク環境の裾野を 拡大するため、以下の取組を進めることで、就業者におけるワークライフバランスの確立などを実現する。

- ①企業等のテレワーク導入を促す人的サポート体制の拡充
- ②セミナー、シンポジウムの開催を通じた普及啓発活動 等



「異能vation」プログラム等の推進

Inno
■ 独創的な人向け特別枠 「異能vation」

【主な経費(再掲)】 戦略的情報通信研究開発推進事業 18億円の内数 (20億円の内数<27当初>)

- ICT分野において、破壊的な地球規模の価値創造につながるイノベーションの芽を育てるため、大いなる可能性がある野心的なICT研究課題に挑戦する独創的な人材を支援する「異能(Inno)vation」を推進する。



※ 「異能vation」のメッセージへの認知が広まり、平成27年度の総応募数は1061件（前年比1.5倍）と更に増加。上記の他に、業務実施機関が行う本プログラムの協力・協賛企業による支援プログラム（研究環境の提供等）有り。

医療・教育分野等でのICTの活用

医療・介護・健康分野でのICTの活用の推進

【主な経費】次世代医療・介護・健康ICT基盤高度化事業 7.7億円（4.7億円<27当初>）

- 個人が自分自身の医療情報等を効率的に管理し、自分に合った医療サービス等を受けられる環境を整備すること等により、少子高齢化の進展等に伴う社会保障費の増大等の課題解決にICTで貢献するため、以下の施策を実施する。

① PHR※プラットフォームの構築

個人の健康・医療・介護情報をポータブルかつ効率的に管理できる情報連携基盤のモデル実証

(※) Personal Health Record：個人が時系列的に管理・活用可能な自己の医療・介護・健康に関する情報

② 医療・介護情報連携基盤の全国展開

- ・モバイルを活用した低廉でセキュアな医療情報連携ネットワークに関する技術実証
- ・在宅医療・介護分野の情報連携における標準化に向けた検討



医療・教育分野等でのICTの活用

先導的教育システムの実証推進 ～ICTドリームスクールの実現に向けて～

【主な経費】先導的教育システム実証事業(ICTドリームスクールイノベーション実証研究) 7.5億円 (4.5億円<27当初>)

文部科学省と同一の実証地域において、高コスト(端末等の設置・管理)のシステム、教材・学習履歴の分散保存、シームレスな学習・教育環境が未構築等の課題を解決するため、クラウドやHTML等の最先端の情報通信技術を柔軟に取り入れ、多種多様な端末に対応した低コストの教育ICTシステムの実証研究を実施。3カ年計画の最終年度として、以下の施策を実施する。

① 学習・教育クラウド・プラットフォームの標準仕様等の策定

学習・教育クラウド・プラットフォームを構築し、実証校における検証等を通して、教育委員会向けにクラウド等の導入に係る標準仕様書やセキュリティポリシーガイドライン等を策定する。

② 学習・教育クラウドプラットフォームの普及展開

クラウド等の調達に関する専門家を各地に派遣し、クラウド・プラットフォームの普及展開を推進



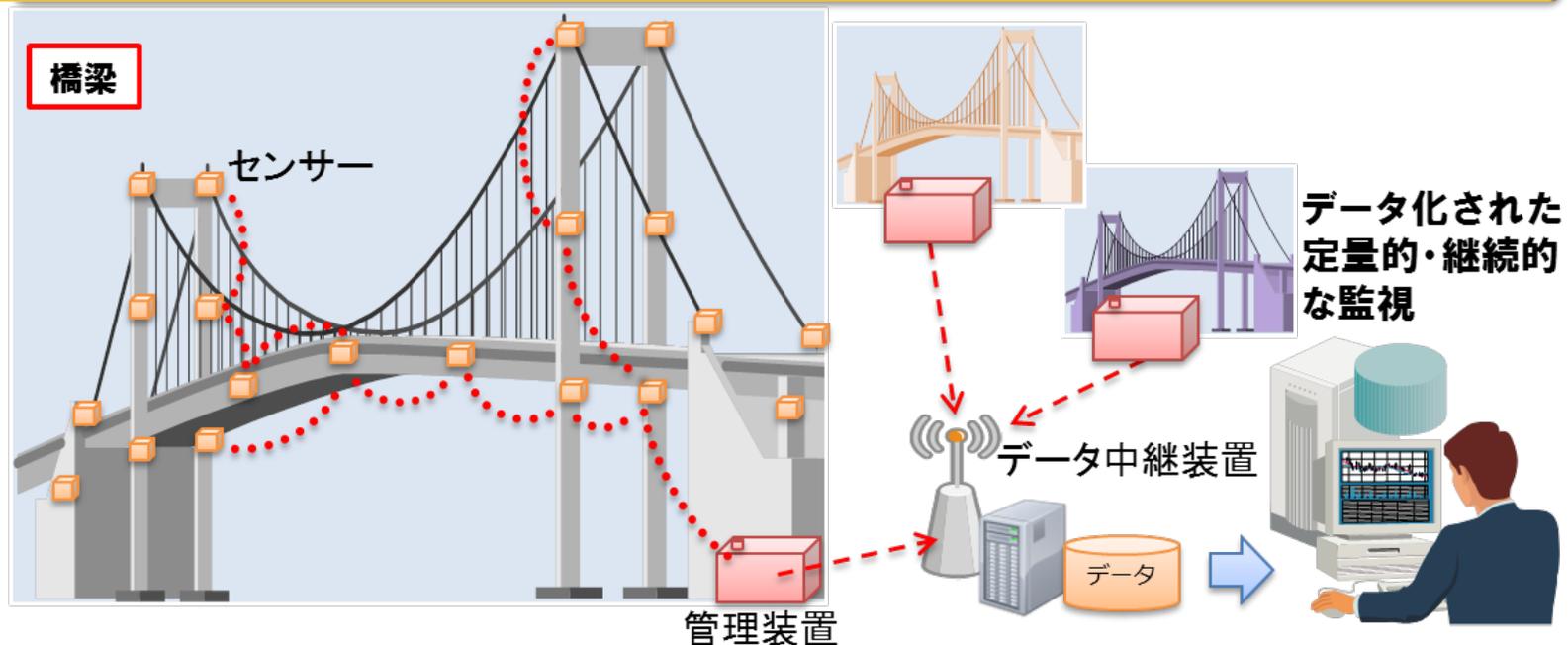
社会インフラ維持管理へのICTの活用

■ スマートな社会インフラの維持管理

【主な経費】 スマートなインフラ維持管理に向けたICT基盤の確立 1.5億円（1.5億円<27当初>）

- 社会インフラの老朽化を踏まえ、ICTを活用した社会インフラの効果的・効率的な維持管理を実現するため、センサー等で計測したひずみ、振動等のデータを、高信頼かつ超低消費電力で収集・伝送する通信技術等を確立する。

センサーによる効率的・効果的な社会インフラの維持管理

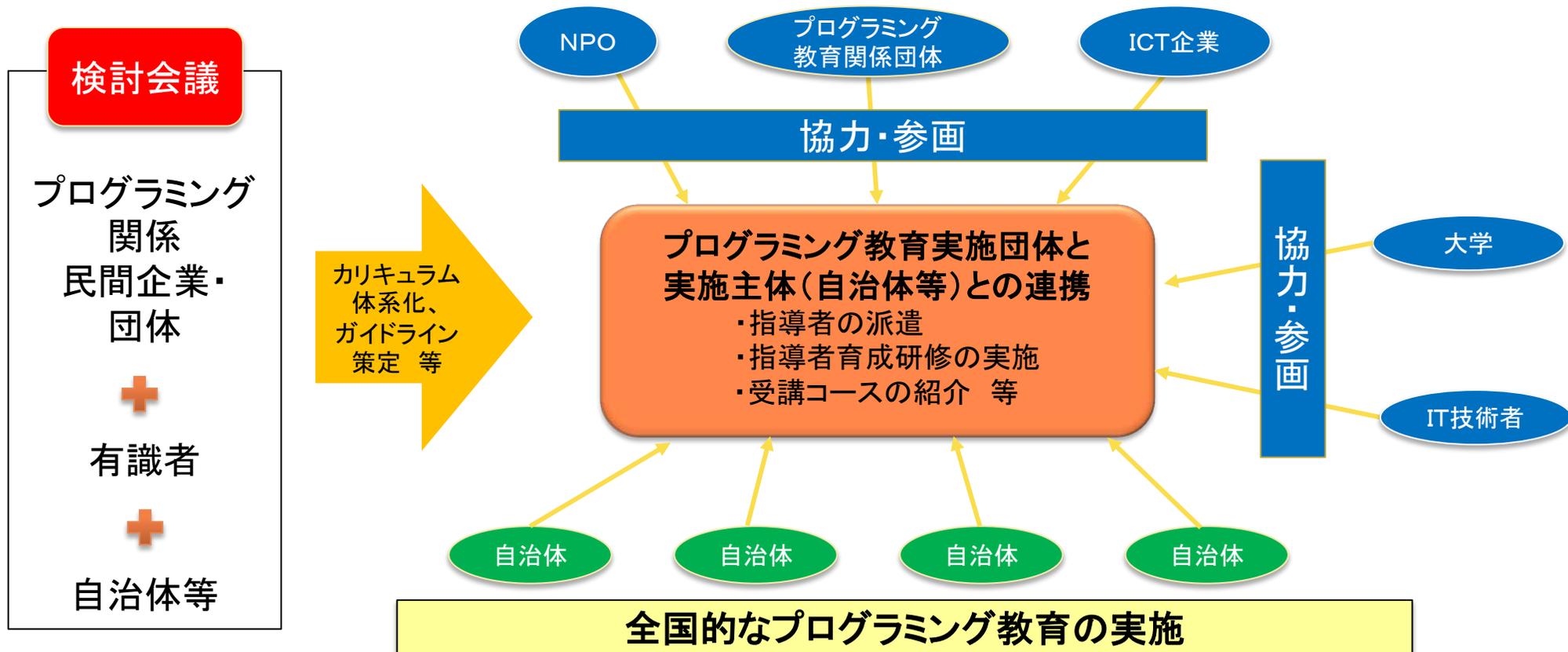


若年層に対するプログラミング教育の推進

■ 若年層に対するプログラミング教育の推進

【主な経費】 若年層に対するプログラミング教育の普及推進 5.0億円（新規）

- 世界的にプログラミング教育の推進が進む中、我が国においても初等・中等教育段階をターゲットとしたプログラミング教育を通じ、イノベーションを創出するICT人材としての素地をみながため、関係省庁・団体等と連携し、プログラミング教育の推進に関する取組及び裾野拡大のための事業を行う。

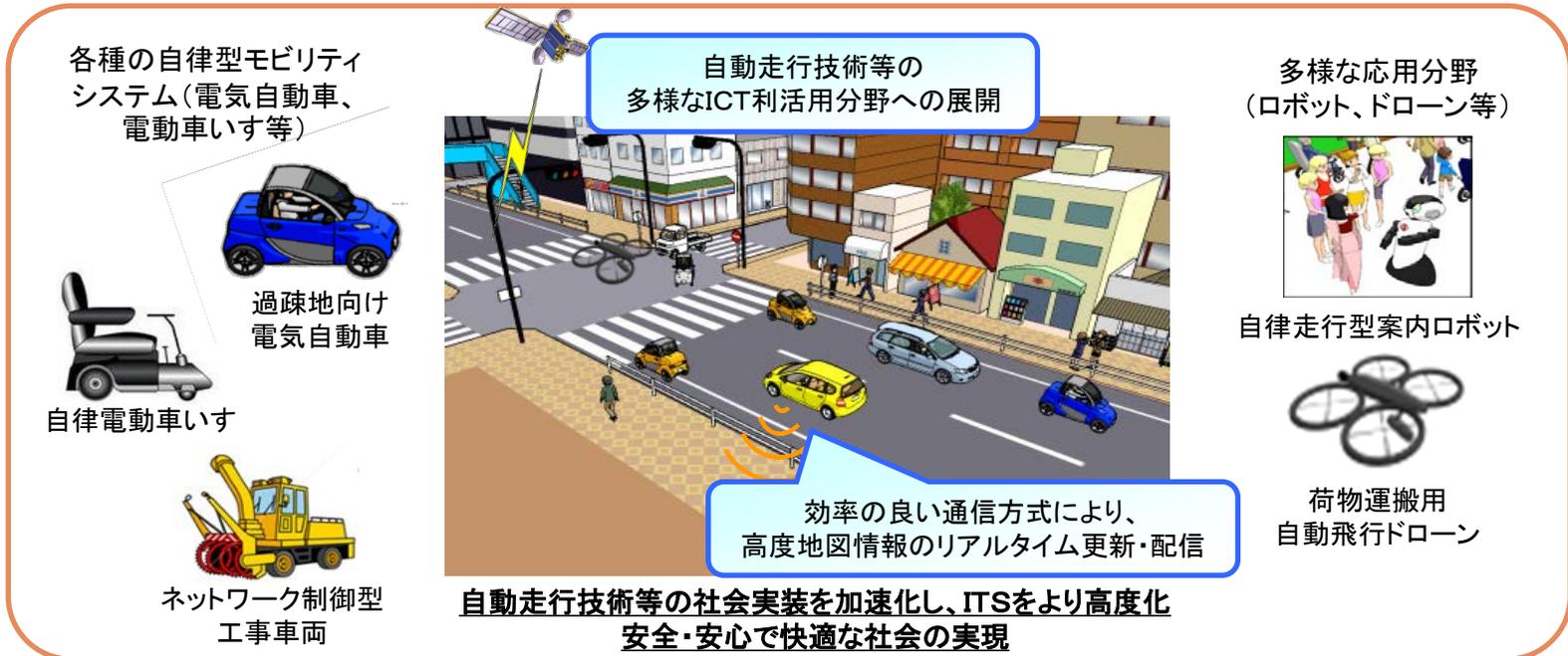


ロボットや人工知能による行動支援(自動走行、自動制御等)

ロボットや人工知能による行動支援(自動走行、自動制御等)

【主な経費】 自律型モビリティシステム(自動走行技術、自動制御技術等)の開発・実証 17億円 (新規)

- 超高齢化を迎える中で、過疎地も含めた高齢者の安全・安心な生活、多様な経済活動の生産性確保等に資するため、我が国の持続的な成長の基盤として期待されている自動走行技術を実装した自律型モビリティシステムについて、早期の社会実装、普及を目指し、総合的な研究開発と社会実証による以下の取組を推進する。
 - ① 自律型モビリティシステム(電気自動車、電動車いす等)のネットワーク制御における高信頼化、緊急時の自動停止、再起動等の安全対策、衛星測位等も組み合わせた移動の高精度化を実現するための技術開発及び実証実験を推進
 - ② 自動走行に必要な不可欠な高度地図データベースの高効率なリアルタイム更新技術や各車への高効率情報配信技術の研究開発及び実証実験の推進
 - ③ 自律型モビリティシステムの多様な分野(観光、土木、福祉、農業等)における利活用実証環境の整備



個人番号カード・公的個人認証サービス等の利活用推進

個人番号制度の導入、個人番号カードの利活用推進

【主な経費】 公的個人認証サービス利活用推進事業 8.0億円 (5.0億円<27当初>)

- 個人番号カードに搭載される「公的個人認証サービス」機能について、民間分野や認証プラットフォームなど行政分野における利活用の拡大に向けて、必要な実証等を実施する。

公的個人認証の利活用の実証(イメージ)

